香 川 高 等 専 門 学 校

令和7年度　年度計画 （高専名：香川高等専門学校）	令和7年度　実績報告
（1）入学者の確保 ①-1 (a) 入学希望者及びそのステークホルダーを対象とした香川高専webコンテンツの充実や、香川県下の各中学校長や進路担当教員との情報交換等により、効果的な広報活動を行い、香川高専の特長や魅力を積極的に発信する。 ①-1 (b) 国公私立高等専門学校合同説明会に参加し、入学者確保の取り組みに努める。	（1）入学者の確保 ①-1(a) 本校の公式 YouTube チャンネルを利用し、本校学生が作成した学生募集動画の公開を行った。Instagramにおいても入試イベント等の案内や日々の学校行事について情報発信を行った。また、教員による中学校訪問び中学校主催の行事「高校説明会」にて、中学校校長並びに進路担当教員と情報交換を密に行い、香川高専の特長や魅力を中学校関係者に積極的に発信した。 ①-1(a) 香川高専Webコンテンツの充実、中学校との連携強化に関する指標 SNSフォロワー数（Instagram）：+34%（6/4時点840件→1,123件） 動画コンテンツ（学校紹介・学生インタビューなど）の再生回数：1本あたり1192回（動画23本, 27,434回視聴） 香川県内中学校への訪問件数：69校（高松31校・詫間38校） 中学校教員との意見交換会・説明会の開催数：3回 中学校教員からのアンケート回収率：96%（（アンケート枚数44枚,参加者46名） ①-1(b) 国公私立高等専門学校合同説明会（東京・大阪）に参加し、他高専と連携した組織的、戦略的な入学者確保の取り組みに努めた。東京会場では個別相談ブース（オンライン）を出展した。大阪会場では個別ブース（現地会場）を出展し、中学生・保護者に香川高専をアピールした。 ①-1(b) 国公私立高等専門学校合同説明会参加に関する指標 説明会への参加回数：2回(東京・大阪) 配布資料数：97部（東京はオンラインのため除外） ブース訪問者数：20名前後
①-2 入学者募集説明会（中学3年生・保護者を対象、中学教員を対象）、体験入学・オープンキャンパス（中学1～3年生・保護者・中学教員を対象、小学生～中学生を対象）、本校主催の学校説明会、中学校主催の高校説明会・進路相談会、県内・近隣県への中学校訪問、母校訪問（教員による訪問、学生による訪問）、塾訪問、地域の各種イベント等の機会を活用し、香川高専の特性や魅力を発信する。	①-2 以下のとおり、入学者募集説明会、体験入学・オープンキャンパス等を開催し、入学者獲得に向けた活動を行った。 ・教員による中学校訪問（高松31校・詫間38校）。訪問校数：69校 ・オープンキャンパス(体験入学)（中学生・保護者等対象）8月9、10日　詫間キャンパス（参加者中学生向け：541名、一般向け：246名）、8月10、11日　高松キャンパス（参加者718名）。参加者数（学年別）：中1～中3、小学生含め延べ736名。 ・国公私立高等専門学校合同説明会（東京）個別相談ブース（オンライン）に出展（大阪）個別相談ブース（現地会場）に出展。 ・入学者募集説明会（中学校教員対象）10月3日　詫間キャンパス（17校）、10月8日　高松キャンパス（25校）、10月20日　岡山市（4校）。開催回数：3回　参加者数：46名。中学校教員からのアンケート回収率：96% ・入学者募集説明会（中学生・保護者等対象）10月4日　詫間キャンパス（参加者201名）、10月11日　高松キャンパス（参加者188名）。開催回数：6回。参加者数：472名。アンケート満足度：97%「よかった」（よかった以上77件/79アンケート枚数）。 ・地区別学校説明会（中学生・保護者等対象）10月18日　岡山市（参加者10名）、倉敷市（参加者21名）。10月25日　綾川町（参加者18名）、丸亀市（参加者34名）。 ・中学校主催の高校説明会（高松23校・詫間21校）に参加。参加校数：44校 ・学生による母校訪問（高松12校・詫間19校）。実施件数：31校 ・秋季オープンキャンパス（小学生・中学生対象）詫間キャンパス（11月1、2日）及び高松キャンパス（11月1、2日）にて開催した。 ・教員による中学校訪問及び中学校主催の高校説明会の機会に、校長及び進路指導担当教員と積極的に情報交換を行い、中学生・保護者、中学校が特に必要としている情報や不安要素を把握し、学校説明会や中学校主催の高校説明会における発信に活かした。
①-3 小中学校・小中学生を対象とした出前授業や地域イベントにおいて、高専の魅力を伝える広報物や入試イベントのちらしなどを配布し、入学者確保に取り組む。	①-3 出前授業や地域イベントにおいて、学校案内およびオープンキャンパスのチラシなど広報物の配布を行い、幅広い年齢層の方々に高専の魅力を伝えた。 配布した広報物（パンフレット・チラシなど）の部数：563部
②-1 女子小中学生向け広報資料を作成し、それらを活用した広報活動や、オープンキャンパスの女子中学生・保護者を対象とした相談コーナー設置、研究を伴う課外活動及び各種イベント等への女子学生の積極的参加を支援・促進する等により、女子入学希望者確保に向けた取組を推進する。	②-1 オープンキャンパス（体験入学）、入学者募集説明会、高校説明会等において女子学生向けパンフレット（ガールズノート、高専女子キャリアデザイン）を配布した。 オープンキャンパスにおいて女子中学生・保護者を対象とした相談コーナーを設置し、女子入学希望者確保に向けた取組を実施した。 ②-1 地域イベントにおける広報物の配布に関する指標 配布部数：1,553部（ガールズノート） 女子中学生・保護者向け相談コーナーの設置回数：1回（オープンキャンパス）
②-2 優秀な留学生の確保に向けて、広報物「学校要覧」の英語版の充実や「学校案内」における留学生コラムの更新を図る。また、短期の英語による高専教育プログラムであるKOSEN Global Campへの参加を促す。また、外国人留学生に対する教育効果を一層高めるため、チューター制度による個別の指導助言を行うことにより、留学生の学習の向上及び環境への適応を図り、外国人留学生が安心して学修を継続できる環境を引き続き整備する。	②-2 優秀な留学生の確保に向けて、留学希望者を対象とした機構本部とりまとめの広報誌へ香川高専の特長や魅力を掲載すると共に、広報物「学校要覧」の英語版、「学校案内」にて留学生コラムでの留学生の活動紹介を更新するなど、香川高専を広くアピールした。 定期的に修学サポート「日本語カフェ」で、外国人留学生との面談を行っている。 国際交流室を通じて、KOSEN Global Campなどの各種イベントや海外派遣プログラムについて学生に案内している。 ②-2 留学生向け広報物の整備、チューター制度運用に関する指標 留学生コラムの更新回数：1回（学校案内） チューター配置率：留学生1人に対して1名 チューターとの面談回数：月1回以上（報告時に面談）
③-1 香川高専の教育にふさわしい充分な資質、意欲と能力を持った多様な入学者を確保するため、アドミッションポリシーに基づいた推薦・学力・帰国生・編入学生の入学者選抜を実施する。 　また、受験生の利便性を向上させるため、居住地の近くの各国立高等専門学校等で受験できる「最寄り地等受験」を推進する。	③-1 香川高専の教育にふさわしい充分な資質、意欲と能力を持った多様な入学者を確保するため、アドミッションポリシーに基づいた推薦・学力・帰国生・編入学生の入学者選抜を実施した。 また、学外開催での高専フェス、入学者募集説明会において「最寄り地等受験」についてアピールした。 ③-1-1 選抜プロセスの質に関する指標 アドミッションポリシーの理解度（充足率）：約98%（各項目「やや十分」「十分」と評価された割合の平均） ③-1-2 「最寄り地等受験制度の利用に関する指標 最寄り地受験実施件数：4件（本校志願者） 制度案内実施数：6件（入学者募集説明会（教員対象）））
③-2 障害がある受験生に対する配慮について、入学者募集説明会やホームページにて具体的な対応等の情報を発信する。	③-2 入学者募集説明会やホームページにおいて、合理的配慮に関する情報を発信し相談に適時対応した。 ③-2 障害がある受験生に対する配慮に関する指標 ホームページにおける「障害のある受験生への配慮」ページの設置：公開済 入学者募集説明会での説明：3回 掲載する配慮内容の例数：8項目
（2）教育課程の編成等 ①-1-1　昨年度実施された、「社会ニーズ取り込みによるカリキュラムマネジメント推進」事業により、COMPASS5.0拠点校の実施する各種活動へ参加するなど情報収集を実施した. R7年度は、上記に基づいて本校の教育への取り込みを図る.	（2）教育課程の編成等 ①-1-1 昨年度の取組を踏まえ，本校の教育への反映に向けた検討を進めるとともに，令和8年度開始の新カリキュラムへの対応を含め，教員の理解促進を目的とした研修を実施した。 その一環として，以下のとおり計2件の研修を実施した。 ・令和7年度教育実践研究会（11/28） 「COMPASS 5.0 事業（半導体）～実践校としての取り組み紹介～」 ・新しいカリキュラムに関する教員研修(1/27) 「令和8年度教務関係留意事項について」

令和7年度　年度計画 （高専名：香川高等専門学校）	令和7年度　実績報告
①-1-2　昨年度から運用を開始している起業家工房の活用を促進させる。また、アントレプレナーシップ教育に関する取り組みを充実させる。	①-1-2 【高松】 第１回FD研修会「イノベーション創出のためのアントレプレナーシップ・スタートアップ教育」（4/24）、第４回FD研修会「高専生のスタートアップによる地域創生」（9/26）を開催した。 【詫間】 第2回FD研修会「アントレプレナーシップ教育強化について」（5/22）、第6回FD研修会「高専生のスタートアップによる地域創生」（11/4）を開催した。
奈良先端大学院大学と共同研究テーマを設定し、専攻科在籍時から専攻科指導教員と奈良先端大教員が共同で研究指導できる連携教育プログラムを締結する準備を進める。	①-2　奈良先端大学院大学と連携教育プログラムの締結には至らなかったが、広島市立大学大学院と協議を重ね、広島市立大学大学院情報科学研究科と推薦入学及び研究協力に関する覚書を締結した。
・タイ高専との学術交流協定の締結に向けて、両校で検討する。 ・学生や教職員向けに開設しているMS Teams「国際交流室(公開)」において、海外留学・海外インターンシップ・学生交流などの情報を発信して、海外で活動する機会を推進する。 ・KOSEN Global Campやアントレプレナーに関する研修についても情報発信して、積極的な参加を推進する。	②-1 ・8月までに、両校の校長により署名が行われ、タイ高専と学術交流協定を締結した。 ・「国際交流室(公開)」チーム（登録者数：約340）において、今年度分はこれまでに約50件以上の各種情報を発信した。 ・「国際交流室(公開)」チームにて、鳥羽・米子・鈴鹿高専にて開催されるKOSEN Global Campの案内を発信し、参加を推進した。結果として、本校からの参加者はいなかった。
・学生や教職員向けに開設しているMS Teams「国際交流室(公開)」において、海外留学・海外インターンシップ・学生交流などの情報を発信して、海外で活動する機会を推進する。【再掲】 ・KOSEN Global Campやアントレプレナーに関する研修についても情報発信して、積極的な参加を推進する。【再掲】	②-2 ・「国際交流室(公開)」チーム（登録者数：約340）において、今年度分はこれまでに約50件以上の各種情報を発信をした。【再掲】 ・「国際交流室(公開)」チームにて、鳥羽・米子・鈴鹿高専にて開催されるKOSEN Global Campの案内を発信し、参加を推進した。結果として、本校からの参加者はいなかった。【再掲】
③-1　全国高等専門学校ディープラーニングコンテスト、全国高等専門学校ロボットコンテスト、全国高等専門学校デザインコンペティション、全国高等専門学校プログラミングコンテスト等の全国的なコンテストへの参加を奨励し、参加学生の活動を積極的に支援する。 ・令和8年度に全国高等専門学校プログラミングコンテストの主管校として、開催に向けての準備活動を行う。	③-1 成果指標として、全国規模のコンテスト（全国高等専門学校ディープラーニングコンテスト、全国高等専門学校ロボットコンテスト、全国高等専門学校デザインコンペティション、全国高等専門学校プログラミングコンテスト）の予選には両キャンパス会わせてすべてエントリーし、成果目標を達成した。また、ロボコン、デザコン、プロコンの3つのコンテストについて全国大会の出場をはたし、成果目標である3つのコンテスト以上の全国大会出場を達成した。 令和8年度のプログラミングコンテストの主管校として、学内の準備委員会を立ち上げ、キャッチフレーズ（香川で打つ、挑戦のアルゴリズム）を校内募集した案から選定した。ポスターは漫画研究部に依頼し、完成した。10月10～12日の令和7年度の松江大会について準備委員会にて視察を行い、本校が主に検討する学生交流企画、学校PRブース及び企業ブースの運用の確認を行った。松江大会以降プロコン主管校の実行委員会を立ち上げ、11月30日、12月1日、3月20日などの委員会や会場視察を行い、準備活動を継続して行っている。
③-2　災害ボランティアや地域貢献活動への参加についてパンフレットの配布や特別活動などを利用して周知する。また、香川高等専門学校学生表彰規定に則り、顕著なボランティア活動を行った学生及び学生団体の顕彰を積極的に行う。	③-2 香川県が初めて計画するフルマラソンである、かがわマラソン2026のボランティアの募集について香川県より協力があり、学生委員会にて重要案件と位置付け、両キャンパスの全学生に対して掲示・説明資料を作成し、参加募集を呼びかけた。その結果、最終的に両キャンパスから3名（高松1、詫間2）がマラソン当日のボランティアに参加し、イベントの運営に貢献した。また、詫間キャンパス学生会役員が、JR四国マナーアップキャンペーンに参加して、10月29日の午後4時～5時にJR詫間駅にてJR職員の方々と一緒にマナーアップの啓発活動を行った。香東川の清掃を20年以上継続して行っている学生団体ACOサークルや15年以上女子学生の学内における学生間連携、外部組織との連携やイベントの運営に貢献しているたかまつ土木女子の会の2団体に対して、ボランティア活動として優れた活動と認め、特別賞にて表彰した。
・高専機構の「海外活動支援事業」や本校の「国際交流支援基金」を学生に広く周知し、積極的な活用を促すことで、学生が海外活動に参加する機会を拡充する。 ・学生や教職員向けに開設しているMS Teams「国際交流室(公開)」において、海外留学・海外インターンシップ・学生交流などの情報を発信して、海外で活動する機会を推進する。【再掲】 ・KOSEN Global Campやアントレプレナーに関する研修についても情報発信して、活動を推進する。【再掲】	③-3 ・高専機構の「海外活動支援事業」や本校の「国際交流支援基金」について、教室掲示や「国際交流室(公開)」で広く周知し、積極的な活用を促した。現状として、「海外活動支援事業」では10件の研修等に76名が申請した。 ・「国際交流室(公開)」チーム（登録者数：約340）において、今年度分はこれまでに約50件以上の各種情報を発信した。【再掲】 ・「国際交流室(公開)」チームにて、鳥羽・米子・鈴鹿高専にて開催されるKOSEN Global Campの案内を発信し、参加を推進した。結果として、本校からの参加者はいなかった。【再掲】
（3）多様かつ優れた教員の確保 ①　専門科目担当教員については、原則として博士の学位を有する者を応募資格として教員公募を実施する。	（3）多様かつ優れた教員の確保 ①　専門科目担当教員については、博士の学位を持つ者を条件に教員公募を実施した。
②-1　クロスアポイントメント制度について、新たな導入の可能性を検討する。	②-1　クロスアポイントメント制度について、新たな導入の可能性を検討した。
②-2　民間で活躍する人材の活用について検討する。	②-2　民間で活躍する人材の活用について、高専機構本部及びビズリーチ社と連携し検討のうえ、令和7年4月から副業参謀を3名雇用した。
③　同居支援プログラムや各種女性研究者支援プログラムなどを積極的に周知する。また、ライフイベントにかかる支援制度を利用しやすい体制を整え、女性教員が働きやすい環境の整備を行う。	③　教員が仕事と生活の両立を図ることを支援するため、高専間の人事交流の一環として、同居支援プログラムを積極的に周知した。また、ライフイベントにかかる本校の支援制度、手続情報を学内グループウェア内に集約・共有し、制度が利用しやすい体制を整え、女性教員が働きやすい環境の整備を行った。
④　外国人教員（常勤、非常勤）の積極的な採用に努める。	④　令和8年4月1日付採用者6名のうち、2名は外国人教員（常勤）を採用した。
⑤　長岡技術科学大学及び豊橋技術科学大学との教員人事交流制度や国立高等専門学校間の教員人事交流の候補者を募る。	⑤　長岡技術科学大学及び豊橋技術科学大学との教員人事交流制度や国立高等専門学校間の教員人事交流の候補者を募った。
⑥　機構本部が実施する研修に教員を派遣し、本校においても教員の能力向上を目的とした研修を実施する。また、中国・四国工学教育協会高専部会の教員研究集会及び四国地区大学教職員能力開発ネットワーク（SPOD）等への積極的な教職員の受講を奨励する。	⑥　機構本部が実施する研修に教員を派遣し、本校においても教員の能力向上を目的とした研修を実施した。 （機構本部主催） 新任教員研修会：4名 （本校主催） 新任教員研修：3名 FD・SD研修会：156名（教員82名、職員74名） また、中国・四国工学教育協会高専部会の教員研究集会及び四国地区大学教職員能力開発ネットワーク（SPOD）等へ積極的に教職員が受講するよう周知した。
⑦　香川高専の名を高める顕著な功績が認められる教員や教員グループを機構の教員顕彰に推薦する。	⑦　香川高専の名を高める顕著な功績が認められる教員2名を機構の教員顕彰に推薦し、うち一名は文部科学大臣賞（若手部門）を受賞した。
①　本校以外の教育機関における授業の履修（他高専、香川大学）を推進するため、学生に周知する。また、モデルコアカリキュラムに基づく教育課程の編成について点検後の検証を実施するとともに、令和8年度にスタートの新カリキュラムについても、モデルコアカリキュラムに準拠するように検討をすすめる。 また、入学者アンケート、卒業生アンケート等の分析を基にディプロマポリシー、カリキュラムポリシー、アドミッションポリシーの検証を行い必要に応じて改訂する。	（4）教育の質の向上及び改善 ① 〇MCCの点検（現行カリキュラム） ・点検を実施中（高松キャンパス）　第12回教務小委員会(1/27) ・点検を実施済み（詫間キャンパス）　第1回教務小委員会（4/8）、第4回教務小委員会（6/9） 〇MCCの点検（新カリキュラム） ・点検を実施中（高松キャンパス）　第26回教務スタッフ会議(1/13) ・点検を実施済み（詫間キャンパス）　第5回教務小委員会（7/8）、第7回教務小委員会（9/9） 〇新カリキュラムの検討 ・新カリキュラムに伴う学則改正について第3回教務委員会（11/4）、第8回企画運営委員会（11/20）で審議した。 〇3ポリシーの改訂 ・学校のCP、各学科のDP・CPの改正について第2回教務委員会（6月）、第5回企画運営会議（7/17）で審議し改訂した。

令和7年度　年度計画 （高専名：香川高等専門学校）	令和7年度　実績報告
②　教育の質保証及び向上に努めるため、高等専門学校機関別認証評価の評価結果の改善を要する点について組織的に対応を行い改善を促進する。また、令和8年度国立高専教育国際標準(KIS)受審に向けて全学的に進めていく。	②　教育の質保証及び向上に努めるため、高等専門学校機関別認証評価の評価結果の改善を要する点について企画評価室から改善について確認を行い、組織的に対応を行い改善を促進した。また、令和8年度国立高専教育国際標準(KIS)受審に向けて、企画評価室を中心にチェックシートによる業務の確認を全学的に進めた。
③-1 これまでに実施してきた、1～3年生対象の地域課題解決型のPBL科目「プレ研究・研究基礎」について、課題等を検討し、より一層の充実を図る。 また、地域の自治体等と連携し、小中学生を対象としたSTEAM教育の支援を引き続き実施していく。	③-1 【高松】 ・学生祭においてプレ研究中間発表、サイエンスフェスタを実施した。(11/1, 11/2)。 ・小中学生向けイベント実施。(16件) 【詫間】 ・研究基礎は、6テーマで最終発表会を実施(12/11)。 ・小学校での出前授業「リモコンロボット教室」、三豊市少年少女発明クラブ「ロボット教室」などのイベントを実施(20件)。
③-2　香川高専の支援組織である香川高専産業技術振興会、地域企業等の協力を得て、企業と連携した教育コンテンツの開発の取り組みを図る。	③-2 成果発表会は開催できていないが，下記の通り企業と連携した教育コンテンツの開発を進めた。4年生を対象と
④　長岡技術科学大学及び豊橋技術科学大学と連携教育、共同研究の分野で連携を推進する。また、両技術科学大学との教員人事交流の候補者を募る。	④　長岡技術科学大学及び豊橋技術科学大学との連携を強化し、教育の質の向上につなげるとともに、人事交流についても積極的に教員に周知し、有機的な連携を推進した。 MILLA高専連携教育プログラム　申請数：2件 高専−長岡技科大共同研究助成　申請数：3件
(5)学生支援・生活支援等 ①　カウンセラー、ソーシャルワーカー、精神科医の専門職を配置し、学生相談体制を充実させ、以下の活動を実施する。 (a) 個々の案件に対する情報共有は、関係教員によるチームで対応する。担任や相談室員との面談やカウンセリングが必要な学生に関しては、本校非常勤カウンセラーやスクールソーシャルワーカーとも連携して適切な支援を実施する。外部関係機関・専門機関等との連携を密にし、有益な支援を実施する。 (b) 合理的配慮の申請のあった学生に関しては、障がい学生支援委員会を開催し、支援を開始するとともに、進級時における支援継続の有無に関しても保護者と定期的に連絡をとりながら対応し、支援内容を決定する。支援についての合意書を学校、学生、保護者等の署名のうえで交付する。また、修学サポート室とも連携をはかりながら教育支援体制を強化する。 (c) 合理的配慮・支援のための入学前面談を実施する。教員、専門職員等の複数人面談を行うことで、より適切な支援を行う。 (d) 全学生を対象にした自殺防止アンケートについては、機構本部の「学校適応感尺度調査（高専生活に関するアンケート）」を実施するだけでなく、本校独自の「こころと体の健康調査」も実施する。 (e) 学生対象に「いじめ防止」、「自殺防止」、「メンタルヘルス」、「ソーシャルスキルトレーニング」、「依存症」、「性教育」等に関する講演や研修を実施する。 (f) 教職員対象に「発達障がい」、「多様な性(LGBTQ等)」等に関する講習会や研修を実施し学生支援の向上に繋げる。 (g) 本校作成の面談基本シートをもとにした、担任による全学生面談を実施する。 (h) 両キャンパスの学生相談室交流を実施し、有益な情報交換を行い、学生支援の質を充実させる。	(5)学生支援・生活支援等 ① 【高松】 (a) サイボウズスレッドを活用して教員・SC・SSW等が連携し、長期休業前には相談窓口の周知を行った。専門医による月1回の相談機会を設け、重大事案には臨時のSC配置と臨床心理士の助言を得て対応した。 (b) 障がい学生支援委員会を開催し、新規3名、継続7名の支援を実施した。 (c) オープンキャンパスや学園祭において相談ブースを設置し、情報共有を行った。 (d) 年4回のアンケートを実施し、心配な学生に対しては面談やSC・SSWにつないだ。 (e)SCによる自殺予防講演会を実施し、1年生は7月10日、2年生は1月7日に開催した。あわせて、ネット・ゲーム依存に関する講演会を2年生向けに7月17日に実施した。各講演のアンケート結果の平均値は，満足度84.7%、理解度87.5%であった。 (f)SSWによる事例検討会を実施し、機構本部の研修動画の視聴についても案内した。 (g) 面談基本シートおよびアンケート結果を活用し、担任による全学生面談を実施した。 (h)サイボウズを活用し、両キャンパス室長間で情報交換を行い，支援の質向上を図った。 【詫間】 (a) サイボウズ・Teamsを活用し、教職員・SC・SSWが連携した。精神科医による月1回の相談機会を設置した。学習相談や寮生支援も強化した。外部機関とも連携した。長期休業前には保護者へ見守り依頼と相談窓口周知をした (b) 障がい学生支援委員会を開催し、3名新規・5名継続の支援を実施した。 (c) 新入生6名に入学前面談を実施、保健室提出書類から気になる学生を抽出し、関係者と連携した。 (d) 年4回のアンケート実施、気になる学生を抽出し、SCやSSWの面談へつなげた。 (e) 自殺予防講演会(4年生10/9)(2年生1/26)、依存症講演会(1年生12/15)、性教育講演会(3年生12/22)、いじめ防止講話(本科生・専攻科生6/19)を実施した。各講演会のアンケート結果の平均値は、満足度83.6%、理解度82.8%であった。低学年向けメンタルヘルスセミナーとSSW講演会(1～3年)、いじめ防止ミーティング(1年)を実施した。保健室主催の学生相談室イベント(4回)も実施した。 (f) 教職員向けのSSWによる説明会(4/24)やSCによる研修(9/9)、外部講師による講演会(9/30)を実施した。アンケート結果の平均値は、満足度94%、理解度80%であった。 (g) 面談基本シートを活用し、担任による全学生面談を実施、その後、担任とSCが連携して情報共有した。 (h) サイボウズを活用し、両キャンパス室長間で情報交換を行い、支援の質向上を図った。
② 高専機構や産業界から収集した各種奨学金に関する情報は、Webページやー斉メール、香川高専だより、電子掲示、教室掲示等を通して学生及び保護者に迅速に周知する。	② 奨学金の年間の予定は学生及び保護者が閲覧可能な学生便覧（HPにも掲載）に福利厚生　奨学金制度の項を儲け、募集開始時にはもれなく教室掲示やメール配信などで行い、周知した。奨学金専門の担当職員を配置し、学生や保護者からの質問や提出書類の確認を行っている。さらに出された質問については担当職員によりとりまとめて、組織内で共有を行った。
③ ・産官や同窓会からの支援により、低学年からのキャリア教育を実施する。 ・キャリアサポートセンターが提供するインターンシップ・就職・進学情報提供や相談に、Microsoft 365やホームページを活用する。 ・学生の就職支援をサイボウズなどを利用して学科長または担任と連携して実施する。 ・4年生のインターンシップ報告書を、低学年に情報提供する。 ・5年生の就職・進学活動報告書を、4年生に情報提供する。	③ ・産官や同窓会からの支援により、2年生にと3年生に出前授業を11～12月に実施した。 ・就職情報や進路情報をTeamsを活用して提供した。 ・インターンシップや進学の推薦にかかわる進路活動の支援をサイボウズなどを利用して学科長や担任と連携して実施した。 ・4年生のインターンシップ報告書をとりまとめて、低学年が閲覧できるようにした。 ・5年生の就職・進学活動報告書を、4年生が閲覧できるようにした。
1．2 社会連携に関する事項 ①　香川高専webページの教員の技術シーズや研究成果などの情報と活動の詳細を検討し、情報発信の強化を図る。 　Researchmapの更新を実施し、連動している「国立高専研究情報ポータル」等のwebページの情報を最新にして発信する。 　地域自治体等と連携した理科教育や社会人教育のための講座を積極的に実施する. 　報道関係に開催するイベント等の内容(小さなイベントも含め)を随時情報発信、さらに実施後の報告も随時情報発信するための公式LINEアカウントを運用する。	1．2 社会連携に関する事項 ① 香川高専webページの教員の技術シーズや研究成果などの情報と活動の詳細を検討し、情報発信の強化を図っている。 具体的には、Researchmapを更新し、連動している「国立高専研究情報ポータル」等のwebページの情報を最新にして発信した。 （香川高専HPの研究・技術シーズのwebページには、Researchmap及び国立高専研究情報ポータルのリンクが組み込まれている。） 香川県の外部団体であるかがわ産業支援財団と連携して地域の社会人向け技術講座を5回実施した。 高松市と連携した市の保有施設である高松市こども未来館たかまつミライエでの小中学生向けイベント企画では、18回実施した。この連携事業に関しては平成27年度からプレ実施、平成28年度から受託事業として実施しており、イベント回数は令和4年度に100回を超え、今後も継続的な協力への依頼を受けている。 具体的成果指標として「やや満足」「充分満足」の合計割合が80%以上と設定しているが、達成した。 報道関係各社に香川高専報道関係LINE公式アカウントを紹介し、登録してもらった。いろいろなイベントで報道関係LINE公式アカウントを紹介し登録者数を増やすようにした。このシステムを使用し随時イベント情報を情報発信する仕組みを作った。(詫間)

令和7年度　年度計画 （高専名：香川高等専門学校）	令和7年度　実績報告
②(a)　共同研究・受託研究の受入れを促進し、その成果情報の発信や知的財産化に努める。 ②(b)　地域産業界や自治体、(一社)みとよAI推進機構:MAiZM、東京大学松尾研究室と連携し、AI社会実装教育研究本部及び各キャンパスに置かれたAI社会実装教育研究センターにおいてAIの基礎・応用教育を行う。さらに社会実装を目指したビジネス教育、アントレプレナーシップ教育を実施する。 ②(c)　国立高等専門学校間の研究ネットワークを活用し、以下の活動を行う。 ・三豊市・香川高専・(一社)みとよAI推進機構:MAiZM・地域の金融機関を連携させ地域課題、地域企業のニーズを積極的に収集し香川高専、起業OBの会社と情報共有し共同研究や受託研究等に結びつけるコーディネートを活発に行う。 ・各種コンテスト(DCON、WiCON、高専起業家サミット等)に参加することにより、研究成果を社会に発信する. ・S-Booster2024 JAXA賞の受賞作品の社会実装をJAXAと共同で進め、研究成果を社会に発信する. ・REIM産学連携コンソーシアム（KOSEN-REIM）に参画し、社会基盤メンテナンス教育センター（iMec）において、地域における社会基盤のメンテナンス人材育成事業、インフラに関する産官学地域連携である「香川社会基盤メンテナンス推進協議会」における情報発信および地域課題解決を行う。	②(a) 共同研究・受託研究の受入れを促進し、その成果情報の発信や知的財産化に努めている。 具体的には、共同研究は前年比で97.1%、受託研究は前年比21.2%である。 この内容は企画運営会議により全学的に周知されており、学校要覧にも掲載される。 また、四経連のHP内に四国の大学・高専の研究シーズや研究者の情報が知りたいのメニューとして四国の高専をhttps://yonkeiren.jp/match/内に入れていただいた。リンク先は国立高専研究情報ポータルである。 知的財産化したものは下半期に1件あった。 ②(b) MAiZMのCAIOに㈱本気モードの代表取締役：樋口 憲一が就任した。MAiZMと香川高専を中心として地域課題、地域企業のニーズを積極的に収集する仕組みを立ち上げ、樋口氏が企業訪問し実際に活動を開始した。(詫間) ②(b) 夏季休暇中にAI実践ブートキャンプによりAI基礎教育を実施し17名が参加した。(単位受講者7名、単位外受講者6名、教職員4名) AI実践教育として台湾の成功大学と連携しAI②を実施した。 夏季休暇中にAI③ビジネス教育を実施し18名が参加した。(単位受講者12名、単位外受講者6名、) AI④は3月に東大松尾研関係者により実施した。(詫間) ②(c) ・DCON2025全国大会を視察した. また、DCON2026に応募し、3チーム、5テーマが、1次審査を通過した。テーマを整理し, 2次審査に2チーム2テーマを応募することができたが, 審査を通過することはできなかった。(高松)。 ・S-Booster2024 JAXA賞の副賞としての、6カ月間の開発サポートを受け、2025年2月～7月まで、受賞作品の社会実装のための開発を継続した。またその研究成果発信のために、9月に台湾・台南市の南台科技大学で開催された第2回Workshop on Smart Robotics and Applicationsに参加し、成果発表を行った。現在, 当該学生は創業準備中である。 ・WiCON2025に2チーム全国出場し、共に奨励賞を受賞した。(各C、1チーム) ・re-KOSEN(運営メディア総研㈱)に応募し2チーム（各C、1チーム）採択され研究開発を実施した。 ・起業家サミットには応募した。(1件) ・「ドローン×生成AI 防災ハッカソン 2026」(KDDI主催)に詫間キャンパスから5チーム参加し「TEAM ARK」が最優秀賞を受賞 シーズ発表として次の展示会に応募し採択され発表した。 ・IIFES 2025 -オートメーションと計測の先端技術総合展-大学・高専テクニカルアカデミー研究発表 ・The高専@SEMICON2025でのシーズ発表(詫間) ・社会基盤メンテナンス教育センターでは、地域のニーズを把握するために、香川社会基盤メンテナンス推進協議会を運営している。7月に、地域課題解決に資する橋梁点検に関する講習会を実施した。
③-1 ステークホルダーに応じて、本校の活動や成果を積極的に情報発信し、報道機関等に対して積極的に情報提供を行う。また、WebページやSNS等を通じた情報発信を強化する。	③-1 ・香川高専の広報に関する基本方針に基づき、本校の活動や成果を積極的に社会に発信し、各ステークホルダーに応じて、戦略的な広報活動を計画、実施した。 ・日本経済新聞社、四国新聞社等の取材依頼に応じた。また、24件（成果指標20件）の記者クラブへの投げ込みを行った。 ・ホームページの情報を随時更新し、学生活動・教育研究活動の情報発信を行った。 ・SNSを利用した情報発信として、ソーシャルメディア運用ポリシーに基づき、香川高専公式のYouTubeとInstagram、Facebook、LINEなど各ソーシャルメディアの特徴を活かしつつ積極的に情報発信をした。 ・オープンキャンパスや入学者募集説明会の情報をHPトップの上部に設置し、入試広報を効果的に行った。 ・YouTubeチャンネル「みんなの高専チャンネル」に両キャンパスのオープンキャンパスの動画作成を依頼し10月に公開。HPトップページ上部にバナーを設置し, 誘導を行った。 ・外部の広報・ブランディングの有識者を参謀として活用し, サポートを頂き, 広報ブランディングチームによる活動が実施され学外に発信された。(Instagram強化, 学内カイゼン部, 学校案内の見直し, 卒業・修了式企画など)
③-2 Webページや報道機関への積極的な情報提供等により、本校の強み・特色・地域連携の取組や学生活動等の様々な情報を広く発信する。また、報道された内容等については機構に随時報告する。	③-2 ・HPトップに80件（成果指標77件）の「お知らせ」と335件（成果指標289件）の「トピックス」を掲載し、学生活動、各種イベント、地域連携、国際交流の取組等の情報を広く発信した。 ・広報誌として、HP掲載の「学校要覧」、「学校案内」、「教育研究報告」、「図書館だより」、「高専だより」の情報を更新、また、英語版のHPを最新情報に更新した。 ・オープンキャンパスの告知CMを作成し、7月18日（金）～7月23日（水）の期間FM香川の番組内で放送、香川高専の情報を発信した。 ・朝日オリコミ四国発行のフリーペーパー「ビジネス香川」に年4回、本校の取り組みを取材・記事を掲載してもらい、香川高専の情報を発信した。 ・学生の活躍を、オープンラウンジで映写、また、学内広報紙「KAGAWAKOSEN　EXPRESS」をさくら連絡網で配信及び、学内掲示を行い、在校生・保護者・教職員・来校者へ情報発信を行った。 ・香川高専の活動に関する記事等が新聞等メディアに掲載された際は、機構に随時報告した。 ・大学・地域共創プラットフォーム香川のwebサイト「香川キャンパスガイド」では、香川高専の特徴や取り組み、在校生や卒業生の声など広く発信した。 ※記載情報は3/31時点
④(a)　地域の自治体と連携し、小中学生を対象とした公開講座、出前授業、地域交流イベント、理工系人材の早期発掘事業を実施する。 また地域の教育委員会と連携し中学校のプログラミング教育を高専が持っている教材とノウハウを使用し計画的に実施する。また小学校についてもプログラミング教育を高専が持っている教材とノウハウを使用し試行実施する。 ④(b)　小中学生を対象としたSTEAM教育に関連した人材育成事業を実施する。 ④(c)　AIや社会基盤に関連した地域の社会人を対象としたリスキリング、リカレント教育に関する事業を実施する。	④(a) 高松市と連携した市の保有施設である高松市こども未来館たかまつミライエでの小中学生向けイベント企画では、18回実施した。この連携事業に関しては平成27年度からプレ実施、平成28年度から受託事業として実施しており、イベント回数は令和4年度に100回を超え、今後も継続的な協力への依頼を受けている。 具体的な成果指標として5回以上実施と設定しているが、達成した。 ④(b) 学生祭と同時開催のイベント「サイエンスフェスタ」にて香川高専産業技術振興会会員企業、香川大学及び(公財)かがわ産業支援財団のブース出展等により協働し小学生へのSTEAM教育支援等を実施した。 小中学生を対象としたプログラミング教室を香川高専と香川高専発スタートアップの㈱D-yorozuが連携して現在実施中(MAiZM広域連携、三豊市内中学校プログラミング教室、その他依頼により実施した。(詫間) ④(c) ・社会人（産業技術振興会企業社員）を対象とした、生成AI 利活用講座を実施した（8月、9月合計4回） ・社会基盤メンテナンス教育センターでは、橋梁点検基礎編を年4回(5、7、9、3月)、応用編を1回(8月)開催を全て終了している。
海外の協定校を訪問する機会を活用し、本校の学校要覧(英語版)を配布して「KOSEN」を説明する。	1．3 国際交流等に関する事項 ①-1 学生を協定校などに海外派遣する際、引率教員が本校の学校要覧(英語版)を以下のとおり配布し、「KOSEN」を紹介した。 ・RMUTT: 3冊 ・UiTM: 5冊 ・京畿機械工業高等学校(ソウル): 6冊 また、本校に受け入れた短期留学生にもオリエンテーションにて学校要覧を配布し、「KOSEN」を紹介した。
機構本部の要請に応じて、モンゴル高専への「KOSEN」の導入支援として、本校として支援可能な教員研修や教育課程の助言等に協力する。	①-2 現状、機構本部から要請はなかった。
・機構本部の要請に応じて、タイ高専への「KOSEN」の導入支援として、本校として支援可能な教員研修や教育課程の助言等に協力する。 ・タイ高専との学術交流協定の締結に向けて、両校で検討する。【再掲】	①-3 ・現状、機構本部から要請はなかった。 ・8月までに、両校の校長により署名が行われ、タイ高専と学術交流協定を締結した。【再掲】
機構本部の要請に応じて、ベトナム高専への「KOSEN」の導入支援として、本校として支援可能な教員研修や教育課程の助言等に協力する。	①-4 現状、機構本部から要請はなかった。
機構本部の要請に応じて、エジプト高専への「KOSEN」の導入支援として、本校として支援可能な教員研修や教育課程の助言等に協力する。	①-5 現状、機構本部から要請はなかった。
協定校を訪問する機会を活用し、本校の学校要覧(英語版)を配布して「KOSEN」を説明する。【再掲】	①-6 学生を協定校などに海外派遣する際、引率教員が本校の学校要覧(英語版)を以下のとおり配布し、「KOSEN」を紹介した。 ・RMUTT: 3冊 ・UiTM: 5冊 ・京畿機械工業高等学校(ソウル): 6冊 また、本校に受け入れた短期留学生にもオリエンテーションにて学校要覧を配布し、「KOSEN」を紹介した。【再掲】
海外の「KOSEN」導入機関への訪問の際に、KIS認定に向けた情報共有を行う。	①-7 すでにKISの認定を受けたタイ高専(KOSEN-KMITL)を訪問する計画中で、本校の受審に向けた情報共有を行った。(指導や助言ではない)
機構本部の要請に応じて「KOSEN」導入支援に係る取組に協力する。	② 現状、機構本部から要請はなかった。

令和7年度　年度計画 （高専名：香川高等専門学校）	令和7年度　実績報告
・学生や教職員向けに開設しているMS Teams「国際交流室(公開)」において、海外留学・海外インターンシップ・学生交流などの情報を発信して、海外で活動する機会を推進する。【再掲】 ・KOSEN Global Campやアントレプレナーに関する研修についても情報発信して、活動を推進する。【再掲】	③-1 ・「国際交流室(公開)」チーム（登録者数：約340）において、今年度分は約50件以上の各種情報を発信した。【再掲】 ・「国際交流室(公開)」チームにて、鳥羽・米子・鈴鹿高専にて開催されるKOSEN Global Campの案内を発信し、参加を推進した。結果として、本校からの参加者はいなかった。【再掲】
英語力の向上を目指す実践的な英語研修やグローバル環境下で専門スキルを活用する技術研修を推進するため、以下の海外研修を実施する。 ・英語研修 ・研究インターンシップ ・アクティビティ研修	③-2 ・「国際交流室(公開)」チーム（登録者数：約340）において、今年度分はこれまでに約50件の各種情報を発信した。【再掲】 ・「国際交流室(公開)」チームにて、鳥羽・米子・鈴鹿高専にて開催されるKOSEN Global Campの案内を発信し、参加を推進した。結果として、本校からの参加者はいなかった。【再掲】
・高専機構の「海外活動支援事業」や本校の「国際交流支援基金」を学生に広く周知し、積極的な活用を促すことで、学生が海外活動に参加する機会を拡充する。【再掲】 ・学生が海外活動に参加する機会を拡充するため、新たな研修プログラムの実施を検討する。	③-3 ・高専機構の「海外活動支援事業」や本校の「国際交流支援基金」について、教室掲示や「国際交流室(公開)」で広く周知し、積極的な活用を促した。「海外活動支援事業」では10件の研修等に76名が申請した。【再掲】 ・学生が海外活動に参加する機会を拡充するため、今年度新たに「ソウル研修旅行」を企画し、本科生を対象に夏季休暇中に実施した。
オンキャンパス国際化に向けて、外国人留学生の受入れや更なる拡充対策として、以下の取組を行う。 ・協定校から短期留学生を受け入れる。 ・さくらサイエンスプログラムに申請して、短期留学生の受入を検討する。 ・海外研修に参加している様子などを本校の公式インスタに掲載して、本校の魅力や特徴を情報発信する。	④ これまでに、以下の取組を行った。 ・トゥール大学(フランス)から3名、RMUTT(タイ)から5名の短期留学生を受け入れた。 ・さくらサイエンスプログラムに申請した。しかし、不採択となった。 ・短期留学生の活動や夏季休暇中の海外研修の様子を本校公式インスタグラムに計12件掲載した。
・国際交流室で実施する海外研修では参加学生に海外旅行保険の加入を徹底する。 ・令和5年度に作成した「安全管理マニュアル」について、昨年度の状況や経験をもとにフィードバックして見直し・更新する。	⑤ ・今年度から、海外留学生安全対策協議会（JCSOS)に加盟し、海外研修などにおける学校の危機管理体制を整備し、海外研修に参加する学生には海外旅行保険への加入を徹底した。 ・昨年度の海外研修などの経験や上述のJCSOSによる助言を踏まえて、本校の「安全管理マニュアル」をフィードバックし、国際交流室会議での審議を経て、９月の企画運営会議や教員会議でも報告した。
2．1　一般管理費等の効率化 　一般管理費縮減のため、学生・教職員への節電要請、冷暖房の適性温度による使用、既存物品の再利用、消耗品の適正使用等、コスト削減を引き続き実施する。 　調達においては、競争性、透明性の高い一般競争契約を実施し、経費削減に努める。	2．1　一般管理費等の効率化 香川高専節電アクションプラン（2024年 8月6日策定）に基づき学生・教職員への節電要請、冷暖房の適性温度による使用をした。各部署で不要となった既存物品及び消耗品について、学内で周知を行い再利用を促した。 また、一般競争契約においては、公告期間の十分な確保等を行い、複数社による応札、応募業者の増加に努め、競争性、透明性の確保と、経費削減に努めた。
2．2　給与水準の適正化関係規則等に基づき、適正に給与決定を行う。	2．2　給与水準の適正化 関係規則等に基づき、適正に給与決定を行った。
2．3　契約の適正化 　業務運営の効率化及び国民の信頼の確保の観点から、随意契約の適正化（透明性の確保、公正な競争の促進）を推進し、契約は原則として一般競争入札等により行う。 　さらに、引き続き「独立行政法人における調達等合理化の取組の推進について（平成27年5月25日総務大臣決定）」に基づき、入札要件の緩和や広告期間のより十分な確保等により、複数社による応札、応募業者の増加に努める。	2．3　契約の適正化 入札及び契約の適正な実施については、入札及び契約に係る情報をホームページに公表した。 また、調達等合理化計画に基づき、入札参加要件の緩和として、参加業者等級を拡大し、また、原則として12日間以上の公告期間の確保や納品等期間のより十分な確保等を行い、機器の性能に係る比較表等を作成することによって、複数業者による応札、応募業者の増加に努めた。
2．4　情報通信技術を活用した業務の効率化 学生等に対するサービスの提供や教職員の負担軽減及び業務効率化のため、デジタル・トランスフォーメーションを活用した各国立高等専門学校の教育における業務の効率化及び教職員の業務効率化等を推進する。その際、「情報システムの整備及び管理の基本的な方針」（令和3年12月24日デジタル大臣決定）にのっとり、情報システムの適切な整備及び管理を行う。	2．4　情報通信技術を活用した業務の効率化 情報基盤センター及び情報セキュリティ委員会のメンバーで検討し、情報システムの適切な整備及び管理を行った。電子メールのなりすまし防止策のため、システムの設定を行ったり、情報セキュリティに関する宣誓書（教職員）の提出や研修動画の視聴等はMicrosoft365のアプリ機能を利用することで業務負担軽減、効率化を図ることができた。その他、学生等に対するサービスの提供や教職員の負担軽減及び業務効率化のために、連絡網、電子出席簿、寮 外泊・点呼・欠食システム、高専統一ネットワーク、教育用電子計算機システム、会計システム、旅費システム、グループウェア、教務事務システム、Microsoft365、LMSを運用している。なお、情報セキュリティ委員会管理下で情報セキュリティの確保に務めた。
3．予算（人件費の見積もりを含む。）、収支計画及び資金計画 　3．1　戦略的な予算執行・適切な予算管理 　校長のリーダーシップのもと予算配分方針を検討し、企画運営会議で審議し、透明性・公平性を確保した予算配分に努める。 　また、年度中に予算WGを開催し、効果的かつ適切な予算の執行について検討を行う。 　業務達成基準による収益化を原則とし、収益化単位の業務ごとに予算と実績を管理する。	3．予算（人件費の見積もりを含む。）、収支計画及び資金計画 　3．1　戦略的な予算執行・適切な予算管理 機構本部から示達された当初予算について、予算計画及び予算配分方針に基づき予算編成を行い、企画運営会議での審議を経て、教職員へ周知した。 併せて、科研費をはじめとする競争的資金や外部資金の獲得、経費削減、計画的な予算執行、予算管理を依頼した。
3．2 外部資金、寄附金その他自己収入の増加 ・教職員による企業見学会、イブニングセミナー、シーズ発表会等の開催により、香川高等専門学校産業技術振興会会員企業等との交流を深めることで、受託研究・共同研究等を推進し、外部資金の獲得を図る。 ・科学研究費補助金や各種財団研究支援への応募を推奨し、研究資金の獲得に努める。 ・一般社団法人みとよAI社会推進機構:MAiZM、地域の銀行、起業OB、地域のコーディネーターと連携し地域ニーズの収集システムを構築し、ミーティングを実施、共同研究を推進する。 ・同窓会等と連携して卒業生が就職した企業等との交流を強化することで、香川高専支援基金等への寄付獲得に努める。	3．2 外部資金、寄附金その他自己収入の増加 ・8/21に教職員向け企業見学会（(株)カワニシ、(株)トーコー）を実施した。9/25に香川高等専門学校産業技術振興会と連携し、交流会を1回実施した。9/11にシーズ発表会を実施し、産業技術振興会会員企業に対し9件の研究発表を行った。 ・科学研究費補助金は令和7年度新規採択課題が7件であった。学内公募要領説明会やワーキンググループによる査読を実施し、令和7年度科学研究費助成事業への申請率は52%であった。各種財団の研究助成情報については、グループウェア掲示板に掲示し、教員へ周知している。 ・学生祭と同日にホームカミングディを開催し、学生と卒業生との交流をはかるとともに、パンフレット配布にて香川高専支援基金のPRを行った。 具体的な成果指標として外部資金合計を昨年度実績以上と設定しているが、前年比96.0%だった。 ・MAiZMのCAIOに㈱本気モードの代表取締役：樋口 憲一が就任した。MAiZMと香川高専を中心として地域課題、地域企業のニーズを積極的に収集する仕組みを年度末までに立ち上げた。（詫間） ・三豊市と連携し企業版ふるさと納税を実施した。 　企業版ふるさと納税の仕組みを詫間キャンパス同窓会(七宝会)の関東支部総会・四国支部総会で案内した。（詫間）
4．短期借入金の限度額 4．1 短期借入金の限度額 　該当無し	
4．2 想定される理由 該当無し	
5．不要財産の処分に関する計画 該当無し	
6．剰余金の使途 該当無し	

令和7年度　年度計画 （高専名：香川高等専門学校）	令和7年度　実績報告
7．1 施設及び設備に関する計画 ①−1　環境・施設マネジメント委員会を中心として施設マネジメント（キャンパスマスタープラン・施設の有効活用における利用状況調査・スペース再配分・インフラ長寿命化計画等）を推進する。 　また、寄宿舎などの学生支援施設の実態調査とニーズ調査を踏まえた整備計画に基づき、必要に応じて整備を推進する。 　既に完了している構造体及び非構造部材（屋内運動場の照明器具等）の耐震化について、耐震性能の保全に努める。 　女子学生の修学環境改善、女子寮の居住環境改善、女性教職員の就業環境改善について、必要に応じて整備を推進する。 ①−2　機構本部による「国立高専機構施設整備5か年計画」並びに「国立高等専門学校機構インフラ長寿命化計画（個別施設計画・行動計画）」の更新見直し検討に合わせて、キャンパスマスタープラン並びに個別改修計画の見直し更新を検討する。	7．1 施設及び設備に関する計画 ①−1 ・高松キャンパスにて、機械電子工学科棟の改修が実施済みである。また、女子学生寄宿舎の浴室給湯ボイラーの改修が実施済みである。 ・詫間キャンパスにて、第二学科棟並びに第三学科棟の改修が実施済みである。 　構造体及び非構造部材の状況点検が実施済みである。 ・両キャンパスの建物の改修工事において、複層ガラス等の断熱性能の強化を測るとともに、照明のLED化を実施した。その他に、LED照明の購入手配を実施した。 ①−2 機構本部による「国立高専機構施設整備5か年計画」並びに「国立高等専門学校機構インフラ長寿命化計画（個別施設計画・行動計画）」の更新見直し検討に合わせて、香川高専のキャンパスマスタープラン並びに個別改修計画の見直し、更新を検討開始した。
②　安全衛生委員会等を通じて、安全衛生に関する講習会への受講を促す。「実験実習安全必携」については、学内webページに掲載して周知する。	② 安全衛生委員会等を通じて、安全衛生に関する講習会への受講を促した。「実験実習安全必携」については、学内webページに掲載して周知を行った。
③　学内各組織より提出された施設修繕等要求について、環境・施設マネジメント委員会にて実施順位を決定することで、必要に応じた整備を推進する。	③ 令和7年度において、以下の事業を実施した。施設整備費補助金事業　・（香田）共同研究棟改修　・（勅使町）校舎
7．2 人事に関する計画 （1）方針 ①　外部人材として、引き続き、課外活動指導員、カウンセラー、ソーシャルワーカー、心療内科医を雇用する。また、寮の宿日直業務の一部及び課外活動外部コーチについてアウトソーシングを行う。	7．2 人事に関する計画 （1）方針 ①　外部人材として課外活動指導員5名、カウンセラー8名、ソーシャルワーカー2名、心療内科医3名起用した。また、寮の宿日直業務の一部についてアウトソーシングを行った。
②　機構本部から提示された教員人員枠の中で教員配置を行う。また、学科毎に割り振っている人員枠を取り払って運用することを検討する。	②　提示された教員人員枠を完了させた。また、学科ごとに割り振っている人員枠を廃止し、各キャンパスに割り振られた人員枠をキャンパス単位で一体的に運用した。
③　弾力的な教員人員枠の活用について検討する。	③特例流用枠を活用し、令和8年4月1日付で若手教員（助教）を5名採用した。
④−1　専門科目担当教員については、原則として博士の学位を有する者を応募資格として教員公募を実施する	④−1　専門科目担当教員については、博士の学位を持つ者を条件に教員公募を実施した。
④−2　クロスアポイントメント制度について、新たな導入の可能性を検討する。【再掲】	④-2　クロスアポイントメント制度について、新たな導入の可能性を検討した。【再掲】
④−3　同居支援プログラムや各種女性研究者支援プログラムなどを積極的に周知する。また、ライフイベントにかかる支援制度を利用しやすい体制を整え、女性教員が働きやすい環境の整備を行う。	④−3　教員が仕事と生活の両立を図ることを支援するため、高専間の人事交流の一環として、同居支援プログラムを積極的に周知した。また、ライフイベントにかかる本校の支援制度、手続情報を学内グループウェア内に集約・共有し、制度が利用しやすい体制を整え、女性教員が働きやすい環境の整備を行った。
④−4　外国人教員（常勤、非常勤）の積極的な採用に努める。【再掲】	④−4　令和8年4月1日付採用者6名のうち、2名は外国人教員（常勤）を採用した。【再掲】
④−5　シンポジウム及び研修会への参加、ニューズレターの配布を積極的に行い、男女共同参画やダイバーシティに関する意識啓発に努めると共に学内グループウェアにて情報集約する。	④−5　シンポジウム及び研修会への参加、ニューズレターの配布を積極的に行った。具体的には、22件の情報を学内グループウェア掲示板にて掲示及び周知を行い、令和7年度女性教員管理職育成研修については、2名の女性教員が研修に参加した。女子学生向けのイベント案内等については、さくら連絡網メールで5件のイベント等の周知を行い、男女共同参画やダイバーシティに関する意識啓発に努めると共に学内グループウェアにて情報集約を行った。
⑤　教職員の人事交流を進め、多様な人材の育成を図るとともに、各種研修を計画的に実施し、他機関研修にも派遣支援することで資質の向上を図る。 事務職員は、四国地区大学教職員能力開発ネットワーク（SPOD）、機構本部、国及び近隣大学等が実施する研修会へ積極的に参加させる。	⑤　教職員の人事交流を進め、多様な人材の育成を図るとともに、各種研修を計画的に実施し、他機関研修にも派遣支援することで資質の向上を図った。 （本校主催） 新任教員研修：3名 FD・SD研修会：156名（教員82名、職員74名） （機構本部主催）8件、16名 （人事院四国事務局主催）5件、11名 （大学主催）4件、7名 （四国地区高専主催）1件、4名 また、四国地区大学教職員能力開発ネットワーク（SPOD）では、講師を招へいし、本校で「職員のためのわかりやすい 説明入門」を対面形式で実施した。（参加者：23名）
（2）人員に関する指標 常勤職員を各種研修等に派遣することにより、職務能力を向上及び業務効率化を進め、適切な人員配置につなげる。	（2）人員に関する指標 　各種研修等に派遣することにより職務能力を向上及び業務効率化を進め、適切な人員配置につなげた。 （機構本部主催） 初任職員研修会：3名 新任課長研修会：1名 新任校長部長研修会：1名 学務担当者向けオンデマンド研修：1名 会計事務職員契約管理研修：1名 中堅教員研修：4名 （人事院四国事務局主催） 四国地区中堅係員研修：1名 四国地区女性職員のためのキャリアアップ研修：3名 四国地区メンター養成研修：5名 四国地区係長研修：1名 （大学主催） 中国・四国地区国立大学法人等技術職員研修：1名 中国・四国地区国立大学法人等技術職員組織マネジメント研究会：3名 中国・四国地区国立大学法人等労務担当職員研修会：2名 中国・四国地区国立大学法人等係長研修：1名 （高専主催） 四国地区国立高等専門学校技術職員研修：4名 西日本地域高等専門学校技術職員特別研修会（機械系）：1名
7．3 情報セキュリティについて 　情報システムの適切な整備及び管理並びに情報セキュリティの確保を目的として、以下の事項を進める。 ①　情報戦略推進本部の指示に従い、情報システムの最適化作業を実施する。	①　情報戦略推進本部の指示に従い、情報システムの最適化作業を実施した。 成果指標：（香川高専の実施済み作業数）2／（情報戦略推進本部の指示数）2×100＝100[%] 目標：100%→達成
②　機構本部の指示に従い、情報担当者を対象とした研修を本校情報担当者に受講させ、人材確保を図る。	②　機構本部の指示に従い、情報担当者を対象とした研修を本校情報担当者に受講させ、人材確保を図った。 成果指標：香川高専情報担当者の受講者数 2名 目標：1名以上→達成

令和7年度　年度計画 （高専名：香川高等専門学校）	令和7年度　実績報告
③　機構本部の指示に従い、情報セキュリティ監査の結果を評価し、必要な対策を講じる。	③　機構本部の指示に従い、情報セキュリティ監査の結果を評価し、必要な対策を講じた。 成果指標：（香川高専の対策済み情報セキュリティ監査項目）18／（情報セキュリティ監査指摘事項数）19×100＝94.7[%] 目標：90%以上→達成
④　全教職員の情報セキュリティの意識向上を図るため、機構本部の指示に従い、情報セキュリティ教育及びインシデント対応訓練等を実施する。また、管理職を対象とした情報セキュリティトップセミナーなど、対応する職責の教職員に研修を受講させる。	④　全教職員の情報セキュリティの意識向上を図るため、機構本部の指示に従い、情報セキュリティ教育及びインシデント対応訓練等を実施した。また、管理職を対象とした情報セキュリティトップセミナーなど、対応する職責の教職員に研修を受講させた。 成果指標：（香川高専の対象教職員の受講者数）243／（香川高専の対象教職員数）243×100＝100[%] 目標：90%以上→達成
⑤　本校情報セキュリティ委員会、情報基盤センター委員会、CSIRT、情報基盤センターが情報戦略推進本部情報セキュリティ部門と連携し、今後の情報セキュリティ対策等を進める。	⑤　本校情報セキュリティ委員会、情報基盤センター委員会、CSIRT、情報基盤センターが情報戦略推進本部情報セキュリティ部門と連携し、今後の情報セキュリティ対策等を進めた。 成果指標：（香川高専の実施済み作業数）25／（情報戦略推進本部情報セキュリティ部門の指示数）25×100＝100[%] 目標：100%→達成
⑥　機構本部から提供されたインシデント内容及びインシデント対応の情報を関係教職員と共有するとともに、初期対応徹底のために「すぐやる3箇条」の教職員への周知を継続して行い、情報セキュリティインシデントの予防及び被害拡大を防ぐための啓発を実施する。	⑥　機構本部から提供されたインシデント内容及びインシデント対応の情報を関係教職員と共有するとともに、初期対応徹底のために「すぐやる3箇条」の教職員への周知を継続して行い、情報セキュリティインシデントの予防及び被害拡大を防ぐための啓発を実施する。 成果指標：（香川高専の教職員への通知数）39／（機構本部からの通知のうち教職員へ通知すべき通知数）39×100＝90[%] 目標：100%→達成
7．4 内部統制の充実・強化 ①−1　必要に応じ、機動的にWEB会議システムを活用した各種校内会議を実施し、校内での情報共有を図り、意思決定を迅速に行う。	7．4 内部統制の充実・強化 ①−1　集合又はWeb会議システムにて4月24日、5月30日、6月24日、7月28日、9月16日、10月27日の機構の役員会及び企画委員会並びに4月25日、9月17日の機構の校長・事務部長会議に参画した。また、機構が開催する各種会議・セミナーにweb会議等により参加した。
①−2　校長・事務部長会議及び企画委員会等において示される課題や方針等について、速やかに学内での情報共有を図る。	①−2　校長・事務部長会議及び企画委員会等において示される課題や方針等について、都度メール、資料の回覧、企画運営会議及び教員会議での報告等により速やかに学内での情報共有を行った。
①−3　各種会議において、必要に応じ本校の状況・意見等を発信する。	①−3　第4ブロック校長会議（第1回6月5日開催、第2回10月17日開催、四国地区国立高等専門学校校長・事務部長会議（第1回5月7日開催）、各種部課長会議等において、本校の状況・意見等を発信した。
②−1　理事長と校長との面談等において、本校の状況・意見等を発信する。	②−1　8月5日に実施された理事長ヒアリングにおいて、本校の状況・意見等を発信した。
②−2　新任教職員を対象にしたオリエンテーション、全教職員を対象にしたコンプライアンス研修を実施し、コンプライアンスの意識の向上を図る。また、機構本部が実施する階層別研修や各種説明会に参加するとともに、機構本部が作成したコンプライアンス・マニュアル及びコンプライアンスに関するセルフチェックリストを活用し、自己点検を行う。	②−2　新任教職員を対象にしたオリエンテーションを実施し、コンプライアンスの意識の向上を図った。 また、機構本部が作成したコンプライアンスに関するセルフチェックを活用し、自己点検を行った。
②−3　発生した事案に応じ、法人本部と十分な連携を図り、速やかな情報伝達・対策を行う。	②−3　発生した事案に応じ、法人本部と十分な連携を図り、速やかな情報の伝達を行い適切な対策等を講じた。
③　公的研究費に関する内部監査マニュアルに基づき内部監査を実施し、監査結果については、情報共有し、効率的・効果的かつ多角的な監査が可能となるよう、監査項目の見直し等について検討する。 高専相互会計内部監査マニュアルに基づき高専相互監査を実施し、監査結果については、情報共有し、規則に則った適切な会計事務処理を確認する。	③ 機構本部作成の「公的研究費に関する内部監査マニュアル」に基づき、キャンパス間相互会計内部監査を2月頃実施し、規則に則った会計事務処理の確認及び運用上におけるキャンパス間での整合性を確認した。 高専相互会計内部監査マニュアルに基づき高専相互監査を実施し、監査結果については情報共有し、規則に則った適切な会計事務処理を確認した。
④ 「公的研究費の管理・監査のガイドライン」及び「高専機構公的研究費不正防止計画」に基づき、公的研究費等の不適正経理を防止する。	④ 公的研究費等の不正使用の再発防止策を徹底するため、年度当初(4月)に新任教職員を対象とした研究費等不正使用防止に関する説明を行った。また、9月には全教職員を対象とした「コンプライアンス研修」において、研修動画の視聴及び確認テストを実施し、オンラインで研究費等不正使用防止対策の取り組みを行った。 また、4半期に1度、公的研究費不正使用を行わない風土づくりのための啓発メールを送付した。
⑤　機構の中期計画及び年度計画を踏まえ、香川高専の年度計画を定める。また、本校の特性に応じた具体的な成果指標を設定する。	⑤　機構の中期計画及び年度計画を踏まえ、香川高専の年度計画を定めた。また、本校の特性に応じた具体的な成果指標の設定を別途依頼した。